

平成10年度 採択課題研究終了にあたって

「脳を知る」(京都) 研究総括

久 野 宗

戦略的基礎研究推進事業 (CREST) は、平成 7 年 (1995 年) に「脳の機能」研究領域を設置し、平成 9 年に領域名を「脳を知る」と変更し、「脳を守る」、「脳を創る」の 2 領域と共に発足した。筆者は平成 10 年に大塚正徳教授の後を受けて、その領域総括を担当した。

平成 10 年度の「脳を知る」領域には 78 件の研究提案が申請され、書類審査、面接審査を経て、4 件の提案が選択され、今回、これらの研究課題の 5 年間の研究が無事終了したわけである。

CREST の各研究代表者への研究助成の額は年間約 1 億円で、これまでの他の研究助成と比べて、規模が大きく、研究設備を充実できるだけでなく、人材面でも研究員の体制を強化することが可能であった。脳の研究は生命科学に残された大きなフロンティアであり、exciting な領域であると同時に、大規模な研究推進が要請される領域でもある。したがって、脳機能の解明には、戦略として、大型の研究助成が必要と考えられる。

本邦では、これまで、CREST と比較できるほどの大型の研究助成のシステムがほとんど存在しなかったので、この試みは「研究助成の規模を大きくすれば、事実、脳研究は飛躍的に推進できるか」という戦略目標の試金石と考えることもできる。

平成 10 年度に採択された 4 研究課題は、すべて、「脳機能の解明」を目標としたものであるが、その研究手法、対象とした脳の領域は異なっている。筆者は、総括として、毎年、各研究室を訪問して、研究成果を聞く機会にめぐまれ、これまで、なじみの少なかった研究領域の現況を知ることができたのは幸運であり、楽しみでもあった。また、この訪問によって、脳の研究がいかに広い領域であり、いかに多くの思いがけない結果が存在するかを知ったのも、快い知的刺激であった。少なくとも、筆者にとっては、これらの 4 研究課題の結果は

目覚しい成果と思えた。

毎年の研究室訪問の他に、中間評価という制度の名で、それまでの研究成果を聞き、研究アドバイザー、外部評価者を交えて研究内容に関する有意義な質疑応答も実施された。その際に貴重な意見をいただいた、伊佐正、小澤澪司、金子章道、狩野方伸、城所良明、御子柴克彦、水野昇、村上富士夫の諸先生に感謝します。